

目標年度
令和7年度

和歌山県花き振興計画

令和3年3月

和歌山県

目 次

I	花き振興に関する基本的な考え方	-----	1
II	計画の目標	-----	2
III	具体的な振興方策		
1	生産基盤の整備	-----	3
2	県オリジナル新品種・新規導入品目・リバイバル品目の探索と普及	----	3
3	担い手の育成・確保	-----	4
4	経営基盤の強化	-----	5
5	鮮度保持・低温流通	-----	5
6	多様な販売と消費拡大	-----	5
7	花育活動	-----	6
8	環境にやさしい花づくり	-----	6
IV	品目別の振興方策		
1	スターチス	-----	7
2	スプレイぎく	-----	7
3	宿根かすみそう	-----	7
4	ばら、ガーベラ	-----	8
5	切り枝類	-----	8
6	その他品目	-----	8

I 花き振興に関する基本的な考え方

花きは、国民生活のあらゆる機会で活用され、潤いと安らぎを与える存在となっている。

本県では、冬季温暖で日照時間が長い気象条件と、京阪神市場に近い地理的条件を活かし、スターチスやスプレイぎく、宿根かすみそう、ガーベラ、千両、しきみ、さかきでは全国有数の生産量を誇っている。

一方、花き産業は 1995 年をピークに規模が縮小する中、台風や異常気象による施設・農作物への被害の甚大化、燃油価格高騰による生産コストの上昇、新型コロナウイルス感染症の影響による花き需要の落ち込み、担い手不足等、多くの課題に直面している。

このため、生産面では、気象災害に強い施設への転換、燃油価格の影響を受けにくい省エネルギー技術の導入や環境制御技術による生産性の向上等により生産基盤を強化するとともに、県オリジナル品種の育成、リバイバル品種の復活や、10 年後の消費動向を見据えた新品目の導入・普及、担い手の確保と農地集積の推進等により経営の安定化を図ることが重要である。

販売面では、消費者・実需者が求める日持ち性の高い花きの供給、ホームユース向け花き等の新たな需要の喚起、切り花の消費が少ない若年層に向けた SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等を活用した情報発信を行うことが重要である。また、他産業で DX（デジタルトランスフォーメーション）の動きが進む中、花き産業でもデジタル技術を活用して顧客や社会のニーズを捉えることが求められると予想される。

こうした中、花き産業の健全な発展と心豊かな国民生活の実現に寄与することを目的とした「花きの振興に関する法律」が平成 26 年 12 月 1 日に施行され、「都道府県は花き産業及び花き文化の振興に関する計画の策定に努める」こととされている。

このため、令和 7 年度を目標年次とする和歌山県花き振興計画を策定し、生産者と関係機関が一体となって取組を進めることにより、生産の振興と競争力の高い産地づくりを進めることとする。

II 計画の目標

本計画における目標は、以下のとおりとする。

平成 30 年度実績 作付面積 724ha 産出額 71 億円	⇒	令和 7 年度目標 作付面積 739 ha 産出額 76 億円
---------------------------------------	---	---------------------------------------

品目		平成 30 年 (現状)		令和 7 年 (目標)	
		面積 (ha)	産出額 (億円)	面積 (ha)	産出額 (億円)
切り花類	スターチス	73	16	73	16
	宿根かすみそう	20	5	20	5
	きく類	48	5	48	5
	スプレイぎく	33		33	
	小ぎく	9		9	
	輪ぎく	6		6	
	ばら	9	3	8	2
	ガーベラ	6	2	7	3
	切り枝類	423	4	432	6
	その他切り花類	56	7	61	10
切り花類計		635	42	649	47
花木類		85	6	86	6
花壇苗類			2		2
鉢物類			20		20
地被植物類		4	1	4	1
合 計		724	71	739	76

(生産農業所得統計、花木等生産状況調査、花き生産出荷統計、市町村別統計)

注：花木類、地被植物類については、出荷額

Ⅲ 具体的な振興方策

1 生産基盤の整備

1) 施設園芸の高度化

近年の地球温暖化に伴う台風の大型化、突風、竜巻、夏場の異常高温等による農作物生産への被害を未然に防止するため、低コスト耐候性ハウスや耐風性・耐暑性を高めたパイプハウスの導入により、気象災害に強い施設の高度化を進める。

2) 生産性の向上

本県の切り花の多くは、生産性の高い施設栽培が行われている。

今後、更に収益性を高めるため、環境制御等 I C T 技術の導入を進め、高付加価値化・生産の安定化を図るとともに、温暖化による高温障害対策として、細霧冷房装置等の導入を進め、高品質化を図る。

また、老朽化が進むかんがい施設の保全対策を促進し、用水の安定供給を図る。

3) 省力化の推進

生産者の高齢化が進む中、生産量を維持・拡大するには労力の軽減が求められている。このため、共同育苗体制の構築や定植機等の導入を進めるとともに、農業用アシストスーツ等の導入によるスマート化により省力化を図る。

4) 省エネ対策

燃油価格は経済情勢等により変動し、高騰により施設花き経営を圧迫することから、燃油価格の影響を受けにくい省エネ型栽培への転換を図り、温室効果ガスの排出抑制に資するため、省エネ加温設備や循環送風機等の導入を進める。

2 県オリジナル新品種・新規導入品目・リバイバル品目の探索と普及

1) 県オリジナル品種の普及と育成

県では種苗費削減を目指し、これまでスターチスの県オリジナル品種を 12 品種育成してきた。今後、それぞれの品種に応じた栽培技術を確立し、現場への普及を進める。加えて、スターチスでは低温下でも収量性のある品種や萎凋細菌病抵抗性品種の育成に取り組む。スプレイぎくでは茎葉が強固で花持ちが良い夏秋系品種の育成に取り組む。

2) 新規導入品目やリバイバル品目の探索と普及

10年先を見据え、本県の主力品種であるスターチスやスプレイぎくに次ぐ、次世代新規品目の産地形成を進めることが重要である。このため、産地へ新たに導入可能な有望品目の探索と選定を進め、現地実証試験や講習会を通じて、新規導入品目の普及に取り組む。

また、既存品目のうち、栽培技術が確立されており、投資コストや労働力等を勘案して、所得向上が見込まれる品目をリバイバル品目としてスポットをあて、JA等と連携し、生産拡大を図る。

3 担い手の育成・確保

1) 新規就農者の育成・確保

花き生産者の年齢構成は、果樹に比べて50歳未満の割合が高い状況であるが、産地の維持発展を図るためには、新たな担い手の育成・確保が必要である。

このため、県農林大学校や就農支援センター等での技術研修をはじめ、県内外での就農相談会の開催や産地の振興品目や研修内容・支援策をとりまとめた「産地提案型就農モデルプラン」を発信し、新規就農者の育成・確保を図る。

また、県農林大学校では農業の専門知識を確実に身に付けられる教育体制を構築するため、農業系高校との5年間一貫教育に取り組む。

さらに、農家の子弟等に向けて、花き栽培を継承しやすいよう、生産性の向上を図る施設・設備の整備支援や県オリジナル品種の導入推進はもとより、収益性の高い花き経営の魅力を発信していく。

2) 大規模経営体の育成

花きの担い手確保のためには、地域の農業を牽引し雇用の受け皿となる大規模経営体を育成していくことが重要である。このため、農業経営塾等の開催や個別の相談に対する専門アドバイザー派遣のほか、協業組織や法人の育成のため、生産拡大や販売促進、人材育成等の取組を支援する。

また、労働力を確保するため、JAグループと連携し求人情報の発信に取り組む。

4 経営基盤の強化

1) 農地の流動化

高齢化や後継者不足等により経営規模の縮小や経営を断念する担い手がいる一方、規模拡大に意欲的な担い手もいるため、農地の流動化を推進することにより、農地の集積・集約化を図ることが重要である。

このため、農地中間管理機構と各地域の農地活用協議会が一体となつて、農地の出し手と受け手のマッチング活動を展開するとともに、農地中間管理機構が一団農地に含まれる遊休農地をリフォームし、貸付・売渡を行う取組を支援する。

2) セーフティネットの活用

安定的な経営の支えとなるよう、気象災害による園芸施設の損害に備えた園芸施設共済の加入や、生産者の経営努力では避けられない収入減少に備えた収入保険制度の活用を促進する。

また、施設園芸は、燃油価格高騰の影響を特に受けやすいため、価格の急上昇が経営に及ぼす影響を緩和する施設園芸等燃油価格高騰対策事業の活用を促進する。

5 鮮度保持・低温流通

小売業者が重視する「日持ち」や「鮮度」をより向上させるには、生産・流通から小売りまでの品質管理の徹底が重要である。

このため、スプレイぎくや宿根かすみそう等の切り花では、品質保持剤の使用や湿式輸送、低温流通等、採花後の徹底した品質管理により、鮮度の高い「和歌山の花」の供給の実現を促進する。

6 多様な販売と消費拡大

1) 多様な販売への対応

新型コロナウイルス感染拡大防止を契機に自宅で過ごす時間が増加する中、ホームユース用花きの消費が伸び、スーパーマーケットや e コマース（電子商取引）等における花きの販売が増加している。このことから、マーケットインの視点に立ち、ターゲットとする消費者・実需者ニーズの変化に迅速に対応できる生産体制の強化と販売促進に取り組む。

2) 消費の拡大

消費を拡大するため、従来からの物日に加え、様々なPR活動を通じて、花を「贈る」・「飾る」機会の創出と定着を図る必要がある。

そこで、県内農業協同組合青年部が主体となる「母の日参り」運動は、母の日に家族でお墓参りをして、家族愛を再認識してもらおうというものであり、全国主要都道府県や市場及び関連企業と連携して、運動の全国展開を支援する。

また、新型コロナウイルス感染拡大の影響により各種イベントでの需要が減少する一方で、“お家で過ごす時間”が増え、家庭で花を楽しむ人が増えていることから、自宅での消費を喚起するキャンペーン等の実施を支援するとともに、バレンタインデーやいい夫婦の日におけるSNSを活用したPR活動、5G（第5世代移動通信システム）対応のVR（バーチャリアリティ）等による生産者のこだわりや産地情報を発信するプロモーション活動など、情報通信技術を用いた取組を支援する。

さらに、東京オリンピック・パラリンピック、ワールドマスターズゲームズ、大阪・関西万博等国際的なビッグイベントの場を活用して、県産花きのPR及び利用を促進する。

7 花育活動

子供の頃から身近な自然の植物を観察し、植物を育てる機会やフラワーアレンジメント体験など、花や緑に親しむ機会を通じ、やさしさや美しさを感じる心を育む「花育」を推進する。また、花いっぱい運動と連携し、家庭、職場、公共施設等での花きの利活用を推進するとともに、県式典行事での県産花きの活用を進める。

8 環境にやさしい花づくり

農業の持つ物質循環機能を生かし、生産性との調和に留意しつつ、化学肥料・農薬の使用等による環境負荷の軽減に配慮した持続可能な農業の取組を促進する。

また、農業由来の使用済みプラスチックについては、資源の有効利用・環境への配慮から、引き続き、リサイクル処理を促進するとともに、生分解性マルチ導入の検討や長期展張性フィルム等の活用により排出量の抑制を進める。

IV 品目別の振興方策

1 スターチス

日高地域を中心に栽培され、作付面積、出荷量とも日本一の産地となっている。しかし、簡易なパイプハウスでの栽培が多いため、異常気象に強い耐風性や耐暑性の高い施設への転換を進めるとともに、省エネルギー生産のための循環送風機等の整備を進める。

また、経営費に占める種苗費の割合が高いことから、これまでに育成した品種にあった栽培技術を確立し、現場への普及を進めるとともに、低温下でも収量性のある品種や萎凋細菌病抵抗性品種の育成に取り組む。

さらに、年内及び低温期における収量増加とがく落ち等の障害回避のための栽培技術の開発に取り組む。

2 スプレイぎく

有田、那賀地域を中心に栽培され、本県の基幹品目の一つである。しかし、経済情勢等により燃油価格が高騰し、経営を圧迫することがあることから、省エネルギー生産のための循環送風機やヒートポンプ等の整備あるいは変夜温管理技術の導入を進めるとともに、台風等の影響を受けにくい低コスト耐候性ハウス等の整備を進める。

また、夏秋型品種は、高温による開花遅延、花持ち不良、茎葉が軟弱という課題があるため、形質と品質が優れた夏秋系品種の育成に取り組むとともに、高温対策としても循環送風機等の導入を進める。

さらに、冬季の切り花品質向上を図るため、新規光源を用いた生長制御技術の開発に取り組み、年間を通じ、均一で高品質な生産を推進する。

3 宿根かすみそう

日高地域を中心に栽培され、地域の基幹品目となっているが、簡易なパイプハウスでの栽培が多いため、異常気象に強い耐風性や耐暑性の高い施設への転換とともに、省エネルギー生産のための循環送風機等の整備を進める。また、流通段階の低温管理と鮮度保持により、高品質な花きの供給を促進する。

4 ばら、ガーベラ

ばらは那賀地域、ガーベラは日高、西牟婁地域を中心に栽培されている。これらの品目は経営費に占める燃料費の割合が高いことから、省エネルギー生産のための循環送風機、多重カーテン、ヒートポンプ等の機械・設備の導入を進める。

併せて、夏季の高温対策として、自動換気装置や細霧冷房等の導入を進める。

5 切り枝類

中山間地域を中心に千両やしきみ、さかき、ひさかき、こうやまき等が生産されており、直近 5 年間の作付面積は横ばいで推移している。今後、新たな切り枝生産者の参入を図るとともに、生産技術向上のための普及指導や研修会等を通じ、中山間地域における振興品目として高品質安定生産を推進する。

6 その他品目

多様化する消費者ニーズに対応するため、適地性を十分に考慮しながら、ハイブリッドリモニウム（シンジー）等の新品目の導入及びしゃくやく等の既存品目の生産を推進する。また、トルコギキョウ等の切り花類やユウカリ等の花木類については、基本管理の徹底を図るなど高品質安定生産を推進するとともに、新たな用途開拓により需要拡大を図る。切り花ハボタン等の露地栽培品目については、省力化技術の導入を進める。